

# 地域とともにさまざまな取組が行われ、進化し始めた 木づかい運動

環境問題への意識の高まりから、木づかい運動に参加し  
事業化を図る一般企業が増えてきています。

また、地域と連携を図り、木づかい運動に参加する企業や団体などもあらわれてきました。  
木づかい推進月間である今回は、進化する木づかい運動の取り組みを紹介します。

## 東京都港区とあきる野市の 交流事業『みんなと森づくり』

地域間交流  
から発展

平成一七年から、子どもたちの環境教育の場を提供し合う交流が始まり、そこから発展したのがこの事業です。平成一九年二月に、港区環境課、あきる野市農林課、東京都森林組合、秋川木材協同組合、NPO法人あきる野さとやま自然塾、みなと環境にやさしい事業者会議の六団体が、月に一度集まり準備にあたり、四月から事業がスタート。森林を整備することで地球温暖化防止への貢献、国産材を利用した産業の活性化、子どもたちに森林の大切さや意義を常に意識してもらうことなどを目標としています。

活動の大きな柱である森林整備ですが、あきる野市にある二〇ヘクタールの森林を借り上げ、「みなと区民の森」として二年かけて整備していきます。その過程で切り出した間伐材を活用し、港区新橋地区の地場産業であ



あきる野市にある整備中の森林

環境教育の場としても利用されているあきる野市の森林



港区役所環境課地球環境課係長の早藤潔さん

る家具など木材産業を活性化させたり、オリジナルペーパーを作成したりと、事業として発展させていきます。第一弾として、平成二〇年春に新設される港区立エコプラザの内装や備品に、「みなと区民の森」の間伐材を使用しています。

## 間伐促進の新たなモデル 『森の町内会』

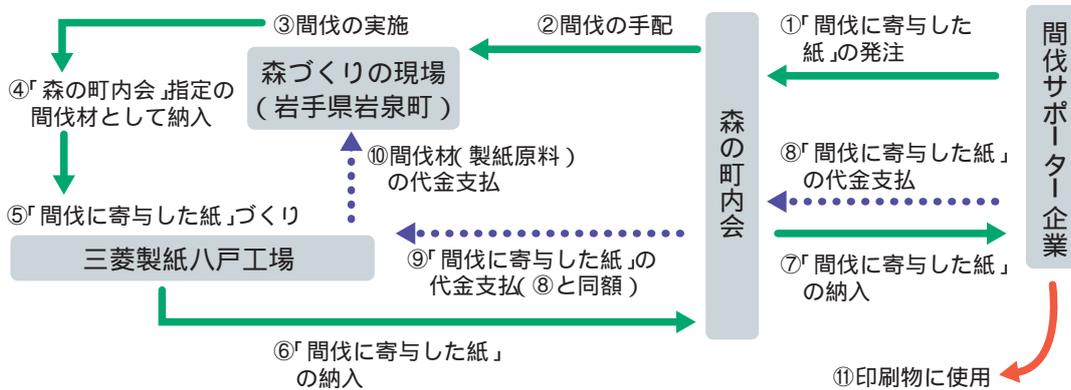
森林整備に悩む  
地域と連携



環境 NPO オフィス町内会事務局  
代表の半谷栄寿さん

オフィスの古紙を企業間で共同回収し、紙のリサイクルに貢献する取組を始めたのが平成三年。「森の町内会」は、これまでの「紙の循環」から「森の循環」へと活動の領域を拡げ、平成十七年にスタートしました。この取組には、活動に賛同していただく間伐サポーター企業はもちろん、地域と製紙会社の協力が必要になります。さまざまな検討した結果、本州でもっとも広い面積があり、その九三%が森林という岩手県下閉伊郡岩泉町と、岩泉町から程近い場所にある三菱製紙株式会社八戸工場と連携を図り、今に至ります。平成十九年九月末現在で、すでに四回の間伐を実施し、一二〇・八トンの紙を生産、二八の賛同企業で八八点の印刷物（計一七〇万部）に使用されています。小さくても成功事例をつくることによって、「森の町内会」方式のモデルを完成させ、この活動が全国で当たり

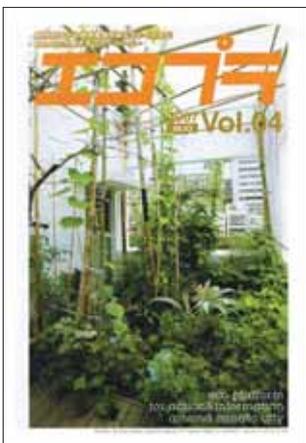
### 具体的な取組の流れ



前に取組まれるようになることが、私たちの目標でもあります。

## 国内の森林と企業・団体とを結び 『3.9ペーパーシステム』

地域を特定せず  
森林整備をフォロー



『3.9ペーパーシステム』によりつくられた、港区が取組む地球環境改善活動を紹介した『エコプラ』

森林資源の活用のために、企業や団体と森林を結び独自の「3.9ペーパーシステム」を構築した株式会社市瀬。その内容は、森林整備で最大の課題である間伐材の輸送コストを、印刷物を発注する企業などが負担し、森林所有者へ還元する仕組みを確立し、間伐から集材、紙の納品までの過程を管理・調整することで、森林所有者と企業・団体を結び、双方にメリットを持たせ、森林保全、二酸化炭素吸収量の拡大、国産材を使用する産業の活性化につながっています。このシステムで誕生したのが『3.9ペーパー』と呼ばれる紙。これには、森づくりを支援した証明が得られるほか、原産地の表記ができるなどの特長があります。港区とあきる野市の交流事業『みんなと森づくり』に参加している、みなと環境にやさしい事業者会議事務局が発行しているフリーペーパー『エコプラ』にも、この紙が使用されています。